



かのや食育サポーターの皆さん

「かのや食育サポーター」が、皆さんの食育・地産地消活動をお手伝いします。
「食の大切さについて話を聞きたい」「調理実習の講師を探している」「農業体験をしてみたい」「食育イベントの補助をして欲しい」など、食と農の交流に関する活動を応援します。ぜひ、ご活用ください。

●かのや食育サポーターの活動内容例

食生活・栄養

食生活と栄養に関する指導、講話等
○望ましい食習慣の形成に向けた講話
○食事バランスガイドの活用実習
○生活習慣病の予防講話 など

調理

食育テーマに沿った調理の指導等
○親子料理教室、子ども料理教室、男性料理教室
○旬の食材、地域食材を使った料理教室、郷土料理教室 など

生産

農林水産業体験の技術指導、講話等
○米、野菜等の栽培指導
○家庭菜園や市民農園の栽培指導
○肉や牛乳生産の講話 など

加工

農林水産物加工体験の技術指導、講話等
○地元産の果物ジャムづくり体験
○味噌加工体験 など

食文化

地域の食文化についての指導、講話等
○地域の伝統的な食文化や食材についての講話
○和食・行事食についての講話 など

食の安全・安心

食の安全・安心に関する講話等
○食品表示、食品衛生、食中毒等に関する講話 など

●かのや食育サポーターを利用できる対象者

市内の保育園・幼稚園・学校・町内会・PTAなど、食育・地産地消活動に取り組む団体 など
※かのや食育サポーターの趣旨に適さない活動や、営利を目的とする活動への派遣はできません。

●申込方法

市農政水産課へ直接お申し込みください。サポーター登録名簿から適格者を選出し、派遣者を調整します。
決定後、申込団体とサポーターとで連絡調整を行い、活動を行っていただき、活動修了後は、「活動報告書」を提出していただきます。
※詳しくは、市農政水産課へお問い合わせください。

総合

その他、食育に関する講話等
○食育全般に関する講話 など

シリーズ「食」と「農」の交流づくり⑦

「かのや食育サポーター」をご活用ください!

「かのや食育サポーター」が、皆さんの食や農に関する活動をサポートします。「かのや食育サポーター」の力を借りて、食育・地産地消の輪を広げてみませんか。

【問い合わせ】 市農政水産課 ☎ 0994-31-1117



「自産自消」にもチャレンジしてみてください!!
食の魅力や楽しさを
お伝えします!!
かのや食育サポーターを
ぜひご活用ください!!

「食」と「農」を考えるきっかけに



原田 靖 課長
市農政水産課

市

では、皆さんが、生涯をとおして心身ともに健康的な生活を送ることができるよう、食や農に関するさまざまな知識・習慣などを身につける活動に取り組む「食育・地産地消」を勧めます。

この取り組みの一つとして、地域や保育園・幼稚園・学校などで食に関する講話や郷土料理などの調理実習、農業体験の指導などを行う「かのや食育サポーター」を養成しました。

6月から9月の4か月間、6回にわたる養成講座を開催し、食育・地産地消を推進するために必要な技術・知識を習得した25人（9月29日現在）が、「かのや食育サポーター」として皆さんの食や農に関する活動のお手伝いをします。
かのや食育サポーターを活用して、私たちが生きていくうえで欠かせない「食」とそれを育む「農」について、考えてみませんか。

正しい食を多くの人に伝えたい

食

食育サポーター養成講座を受講して、日ごろの食事を直すきっかけになりました。例えば、これまでは、主食であるご飯は少なめに、副菜を多くとればいいと思込んでいましたが、食事バランスガイドを勉強したことで、バランスが大切であることが分かり、意識するようになりました。

食生活は、少しの心がけで簡単に改善することができることを体験し、皆さんにも伝えたいと思いました。

かのや食育サポーターの一員として、養成講座で学んだ知識や技術、何より食の楽しさ・大切さを広めていきたいと思えます。特に、若いお母さん世代に、手料理の楽しさを伝えていきたいです。

食べるものは命と直結しています。健康でいるためにも、正しい食を多くの人に学び伝える活動を行っていききたいです。



瀬戸口ひとみさん
かのや食育サポーター

食ができる過程を伝えて欲しい



大平 龍美さん
生産者代表

生産者として、かのや食育サポーターの皆さんと料理講習などを通じ交流活動を行いました。

サポーターの皆さんに期待することは、ぜひ地産地消にこだわって欲しいことです。地元鹿屋の農林水産物を調理することはもちろん、ぜひ自分で野菜を育てて料理して食べるという「自産自消」にもチャレンジしていただき、食材ができる過程を学び、伝えて欲しいと思います。

私たちは、食べ物があつたことが当たり前なことと考えがちですが、「食」は種を蒔いた時から始まっていると思います。食材ができるまでにどれだけの人に関わり、どんな苦労があるのか、その生産過程に興味を持ってもらえるような活動を期待します。
今後は、かのや食育サポーターと生産者が協力して、生産から加工、調理、消費まで一つの流れで「食」と「農」を広げていきたいです。